

第8章 整備

8-1 整備の方針

【整備の基本的な方向性（第5章より抜粋）】

史跡英彦山の保存管理と活用を一体的に進めるため、史跡英彦山の価値を構成する主要な要素の保存整備、史跡英彦山の価値を分かりやすく伝える活用整備の計画的整備の推進を目指す。

整備の基本的な方向性の実現に向けて、以下の方針のもと史跡英彦山の整備に取り組む。

方針1 計画的に整備を推進する

史跡の保存を前提に、積極的な活用を一体的に進めるため、添田町歴史的風致維持向上計画や英彦山再興整備計画等の関連計画との連携を取りつつ、計画的な整備を進める。

方針2 史跡英彦山を構成する要素の保存整備を推進する

史跡の価値を後世に継承するため、史跡英彦山の価値を構成する主要な要素の保存に影響を及ぼす環境改善に向けた整備を進めるとともに、毀損の進行や滅失の恐れのある要素は保存に向けた整備を進める。

方針3 史跡英彦山の価値を向上する活用整備を推進する

史跡の価値を分かりやすく伝えるため、史跡の価値を顕在化させる整備を進めるとともに、来訪者が現地で認識を深めるための環境整備を進める。

8-2 整備の方法

整備の方針を推進する方法を示す。

(1) 計画的な整備の方法

1) 整備基本計画の策定

関連計画や関連法に基づき整備も進められる英彦山の環境の質を高めるため、関連計画や関連法との連携を図りつつ、広大な範囲を有する史跡英彦山を効率的かつ重点的に整備を進めることを目的に、整備基本計画の策定を進める。

(2) 保存整備の方法

1) 歴史的建築物や工作物等の修理

過酷な気象条件や自然災害等により毀損が進行している建築物や工作物を後世に継承するため、緊急度や必要性を勘案しながら、調査研究に基づき修理を進める。

2) 史跡の価値を阻害する要素の除却

繁茂した樹木や倒木等により保存に悪影響が出ている建築物や工作物を後世に継承するため、史跡の価値を阻害している要素の除却を進める。

3) 防災、防犯施設の設備

台風や大雨、落雷等の自然災害の影響を受けやすい環境にある史跡英彦山の価値を構成する主要な要素を保存するため、防災施設の整備を進める。

また、山内における犯罪やいたずらといった人的行為を防止するため、維持管理可能な環境整備を前提に、防犯カメラといった防犯設備導入の検討を進める。

(3) 活用整備の方法

1) 信仰、修験道、レクリエーション等の目的に応じた導線の整備

英彦山への信仰、修験道、登山をはじめとしたレクリエーション等の多目的に利用される英彦山を適切に保存活用するため、目的に応じた導線の整備を進める。

2) 解説板・総合案内板・誘導サインの整備

英彦山内に散在する史跡英彦山の価値を構成する主要な要素の所在や要素の意味が現地では分かりにくいことから、要素の場所を説明する総合案内板や誘導サインとともに、解説板の新規整備や再整備を進める。整備にあたっては、QRコード等による情報提供も見据え、Wi-fi環境の整備の検討も進める。

3) 便益施設、保存展示施設等の整備

英彦山内は休憩する場が少ないことから、人々が休憩できる広場とともにベンチなどの便益施設の整備を進める。

また、英彦山内で発掘された遺物等の展示とともに、最新技術を活用した映像による発信など、展示施設の整備の検討を進める。

4) 宿坊や座主院跡等の公開活用に向けた整備

英彦山にある宿坊は価値を認識する上で分かりやすい要素であるものの、定常的に公開活用されている宿坊は少ない。所有者等の意向を踏まえつつ、公開活用に向けた整備を検討する。

また、座主院跡は所有者である九州大学と協議調整の上、必要に応じて整備を進める。

なお、整備にあたっては地下遺構の保存とともに、周辺の景観との調和が図られている整備を基本とする。

5) 史跡英彦山の全体像を示す模型等の整備

英彦山は広大な範囲を有し、山林に覆われているため、全体像や空間的な特徴を把握しづらい。史跡の全体像とともに、社殿や宿跡、修行窟、宿坊といった構成要素毎の特性の認識を促すため、模型や動画、VR、ARといった映像などの設備整備の検討を進める。

6) 史跡英彦山の価値を構成する主要な要素の復元整備

英彦山は、中宮や宿跡といったかつて建築物の存在が認められている史跡英彦山の価値を構成する主要な要素が存在しているものの、現在残されているのは地下遺構等のため、その価値を認識しづらい状況にある。調査研究や本計画の進捗状況、史跡への関心の高まり等を踏まえつつ、整備の必要性を検討する。